

タウンタウン小麦

特定非営利活動法人 発行 くまがや小麦の会 発行責任者 日向美津江

認定NPO法人 くまがや小麦の会 since 2006 事務局 〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1 TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 23

ラグビーワールドカップがやってくる



9月1日の全日本大会に向けて会場となる埼玉県熊谷ラグビー場は2019年8月末に完成予定である。スタンドの座席数は2万4千席で、旧バックスタンドを増築し、新たなデザインの大屋根を付設し、新たなメインスタンドにした。10人が観戦できる個室8室や170席のVIP席やラウンジなどの施設が設けられる。ピッチ上のプレイルームや映像装置等が増設される。グラウンドではクッション性や回復性に優れた芝によってコンディションの良好な調整が図られる。

●熊谷ラグビー場の新たな旅立ち 2019年ラグビーワールドカップ(W杯)日本大会に向けて会場となる埼玉県熊谷ラグビー場は2019年8月末に完成予定である。スタンドの座席数は2万4千席で、旧バックスタンドを増築し、新たなデザインの大屋根を付設し、新たなメインスタンドにした。10人が観戦できる個室8室や170席のVIP席やラウンジなどの施設が設けられる。ピッチ上のプレイルームや映像装置等が増設される。グラウンドではクッション性や回復性に優れた芝によってコンディションの良好な調整が図られる。

ラグビーワールドカップ2019(W杯)は、4年に一度開催される夏季オリンピック、サッカーワールドカップに肩を並べ世界三大スポーツイベントの一つといわれている。海外からの観客は数十万人、TV放映地域は200以上の国と地域で約40億人が視聴するほどの人気を誇っている。ラグビーワールドカップが埼玉県熊谷市で開催され、地域の魅力を世界中に向けて発信する絶好の機会となっている。2019年に向けて、熊谷市はラグビーフットボール協会、組織委員会など各関係機関と連携した取り組みを進めている。熊谷では、2019年9月24日、ロシア対ヨーロッパ・オセアニアリーグ対ウルグアイ、10月9日、アルゼンチン対アメリカの3日間、熱い戦いが繰り広げられる予定だ。いよいよラグビーワールドカップの本領を発揮する時が到来している。

ラグビーワールドカップの本領発揮

●ラグビーワールドカップへの道 熊谷市役所入庁後、本市のスポーツ行政に関わりながらラグビーワールドカップのブラインド化にも力を注いできた島村さん。熊谷は1990年代以降を中心にまちづくり行政施策の一つとしてラグビーを掲げ、ラグビーによる地域振興など新たな機運が作られてきたと話す。そして、「熊谷は昭和の時代から東日本を代表するラグビーの拠点となっていたが、ワールドカップの招致は容易なものではなかった」と招致活動を振り返る。第7回(2011年)及び第8回大会(2015年)に対する国内招致の動きを経て、2009年7月、第9回大会(2019年)は日本で開催することが決定した。しかし、この招致活動時には、会場候補地に熊谷ラグビー場は含まれていなかった。2011年4月、熊谷市は総合政策部に招致室を設置し、本格的に招致活動を開始。2015年3月2日、熊谷市が開催都市に決定した。開催都市に決定されるまでの官民挙げての活動はラグビーワールドカップ熊谷の熱意と信念の表れだった。

●開催都市として 開催都市として決定後も組織委員会やラグビー協会、県など調整にあたってきた島村さんは、「スタジアムの整備などハード面の準備だけでなく、市民のラグビーに対する意識の高まりを醸成できるように心がけた」と語る。一方、開催への準備に様々な課題があることも明かしている。「熊谷駅からスタジアムまでの交通手段について、多くの来場者に対応できるようにシミュレーションしている」として、国内外からのラグビーファンやインバウンド(外国人観光客の受け入れ体制)への準備を進めている。また、開催時にパブリックビューイングなどを開催するファウンダーの運営に向けて、各関係機関と調整しながら取り組む事業も多い。

熊谷市総合政策部参事 推進室長 島村英昭さん SHIMAMURA HIDEAKI 熊谷市生まれ。昭和58年(1983)4月、熊谷市入庁。商工課、埼玉県への意向などを経て、イメージアップ推進室、保健体育課にて本市のスポーツイベントの運営に関わる。その後、平成23年(2011)4月、スポーツ振興課長兼ラグビーワールドカップ招致室長となり、同準備室長、同推進室長を歴任。



熊谷ラグビーワールドカップの挑戦



●開催都市として 開催都市として決定後も組織委員会やラグビー協会、県など調整にあたってきた島村さんは、「スタジアムの整備などハード面の準備だけでなく、市民のラグビーに対する意識の高まりを醸成できるように心がけた」と語る。一方、開催への準備に様々な課題があることも明かしている。「熊谷駅からスタジアムまでの交通手段について、多くの来場者に対応できるようにシミュレーションしている」として、国内外からのラグビーファンやインバウンド(外国人観光客の受け入れ体制)への準備を進めている。また、開催時にパブリックビューイングなどを開催するファウンダーの運営に向けて、各関係機関と調整しながら取り組む事業も多い。

●開催都市として 開催都市として決定後も組織委員会やラグビー協会、県など調整にあたってきた島村さんは、「スタジアムの整備などハード面の準備だけでなく、市民のラグビーに対する意識の高まりを醸成できるように心がけた」と語る。一方、開催への準備に様々な課題があることも明かしている。「熊谷駅からスタジアムまでの交通手段について、多くの来場者に対応できるようにシミュレーションしている」として、国内外からのラグビーファンやインバウンド(外国人観光客の受け入れ体制)への準備を進めている。また、開催時にパブリックビューイングなどを開催するファウンダーの運営に向けて、各関係機関と調整しながら取り組む事業も多い。

●開催都市として 開催都市として決定後も組織委員会やラグビー協会、県など調整にあたってきた島村さんは、「スタジアムの整備などハード面の準備だけでなく、市民のラグビーに対する意識の高まりを醸成できるように心がけた」と語る。一方、開催への準備に様々な課題があることも明かしている。「熊谷駅からスタジアムまでの交通手段について、多くの来場者に対応できるようにシミュレーションしている」として、国内外からのラグビーファンやインバウンド(外国人観光客の受け入れ体制)への準備を進めている。また、開催時にパブリックビューイングなどを開催するファウンダーの運営に向けて、各関係機関と調整しながら取り組む事業も多い。

「義理と人情とお賽銭」 日向美津江

●東京の御盆は7月、熊谷は8月に行われている。この季節はお世話になった方、心に残る方に感謝の気持ちを込めてお賽銭を捧げます。デパートのお中元コーナーは近年、縮小化の方向にはありますが賑わって見えます。学生時代興味のある学科を担当教授が開講するゼミナールで、マーケティングを専攻しました。市場と市場をどのように結びつけてゆくかを事例の分析をしながら法則を考えてゆくような授業でした。50年前の事なので、当時はまだ新しい分野の学問で、担当教授はハーバードビジネススクール修了し、帰国されたばかりで、熊谷の教壇に立った。卒業後、20年経った頃のゼミの定例総会のスピーチで教授が「世の中を渡って行く為には、義理と人情に加えてお賽銭が必要だ」と話されたので、教授とこの言葉のギャップに鮮烈な印象を抱きました。

●年を重ねてまいりますと、回り取り巻く環境の捉え方、対応の仕方も変化が生じて参りますが、根底は変わるものではありません。教授の話された「お賽銭は個人の置かれた立場により使い方は千差万別、金銭に限らず自分の作れる利他(他人の為になる事)の行為が社会の潤滑油となって行きます。年を重ねた者はよりこのお賽銭を、意識しなくてはならないと感じます。親たちの時代の日本にはこの環境が事前にあったと思います。襟を正す事に繋がる行為だと思います。

●昨今、チャリティの催事、参加を募る催事を企画する幹部の中に、賽銭泥棒が出没している。お賽銭の噂を耳にします。チャリティへの寄付、催事の会費が必要経費の支払い、領収書合計を差し引いたものが、紛れもないお賽銭としてチャリティの対象先等に寄付されています。この清算の事例は問題なく、監査が実施されたとはいえず、主催側には会計報告がされていると思います。主催側が賽銭泥棒を計画する輩がいた場合は不幸が起きます。会に浄化機能が働かず、賽銭泥棒を排除できれば問題ないのですが、賽銭泥棒が会の中心人物の場合は、気が付いても声を挙げ排除までに至らず、真つ当な会員が起きます。催事を計画される側は、賽銭泥棒の暗躍に気付けられる立場にあると思えます。浄化機能の運用は催事される側、企画する側とも勇気を持って、賽銭泥棒の排除に向いましょう。志の高い会員、当り前の(会員)の集う会を作っていくのです。

●教授の酒脱な「義理と人情とお賽銭」は事あるごとに思いお越し、人の為になる良い事を心掛けて暮らしてまいりたいと思います。

小麦の会 活動報告

4/22(日) 全日本10ダンス選手権大会 深谷ビッグタートル

小麦の会会員で10ダンス協会の会員の方が窓口となり2回目の出店となりました。隣町の深谷市での催事です。社交ダンスの衣装、グッズの出店が多く、別世界が繰り広げられています。小麦の会の地粉パン、サブレ、パウンドケーキとソフトクリームの品揃えは人気です。レースブレッドはもう固定客がついたようです。(H)



4/28(土) 友山まつり 根岸邸長屋門

第12回友山まつりは好天に恵まれ、多くの市民の方で賑わいました。初参加の江南市供歌舞伎をはじめ、各団体による演奏・演舞、竹の子狩り、餅つきとお餅の無料配布、最後の抽選会までたくさんの方に楽しんでもらうことが出来ました。模擬店ではパンやアイスクリームを販売し、大好評でした。(NS)



4/29(日) チャレンジ・ミー・ツー熊谷陸上競技場

小麦の会の賛助会員にご入会頂いております熊谷体育協会の御旗で初参加です。販売の御旗を頂いております(株)埼玉福興さんは広大なオリブ畑をお持ちで農業法人で作るオリブオイルは国際的なコンテストで賞を受賞している。この大会の観客には埼玉福興さんが作ったオリブの冠が贈られる。小麦の会の商品に加えて、じゃがいもも販売も行った。(H)



5/13(日) 熊谷市問屋町祭り 熊谷流通センター

母の日に開催される問屋町祭り小雨に見舞われたが、なんとかお祭りが続けられた。ラグビーワールドカップ2019の開催を1年後に控え、アルカス、バナソニックが参加して賑やかに開催された。(H)



5/27(日) 熊谷うまいもんカップ2018 熊谷スポーツ文化公園

去年までのB級グルメ大会がパワーアップして、市内外の美味しい物が集結。当会ブースは会場の端の方でしたが、沢山のお客様がご来店くださいました。埼玉福興さんにご協力いただき、和気あいあいと楽しく販売出来ました。(R)



6/2(日) 江南ホテルまつり

毎年行われている江南ホテル祭りの時期がまいりました。ここで小麦の会はいつもホテルパンを2種類作ります。熊谷産地粉パンと熊谷産小麦の黄色のクリーム、誰がチョコレートとピンクの色をしております。これが大人気です。今年もあつあつという間に売れてしまいます。夜のお祭りです。光景の確保が重要な作業となります。(H)



6/23(土) 熊谷商業高校販売実習 熊谷駅コンコース

熊谷商業高校生が、当会製品と熊谷の名産品を販売。元気な接客販売で、活気ある実習でした。今回から熊商オリジナルカラーパンに加え、ラグビーボール型のラグロン(メロンパン)登場!どちらも好評のうちに完売しました(R)



文化財と街おこし 歓喜院仁王像



妻聖聖天山の歓喜院仁王門には阿形像と呼ばれる。阿形像は、像高315センチメートルあり、市内の仁王像として最大規模である。胎内礼が修理の際に、熊谷の内部から木製の胎内礼が発見され、その墨書により、万治元年(1658)に、鎌倉の仏師である雲海によって製作されたことが判明した。阿形像は彫刻としての造形美に溢れ、朱塗りの胴体から力強い堂々とした姿が立ち上る。熊谷市は、熊谷市有文化財(彫刻)に指定されている。



熊谷の道端から ~ゆるゆる散歩雑記帳~

夏の熊谷といえば熊谷うちわ祭だが、7月は地域に根ざした小規模な夏祭りも市内各地で行われており、催か情報を探る。板井地区の出雲乃伊波比神社(いずのいわいじんじや)の祭礼は7月前半に行われ、三輪の屋台が1台のみ巡行。現在では行程を省略し短距離で済ませているというが、そのごく短い区間にはどかな田園地帯が広がり、緑の中でお囃子を鳴らしながらゆるゆると動く姿は「市内にこんな祭風景が残されていたのか」と感動を覚える。観光化されない素朴で美しい風景、長く残して欲しいと願う。(N・T)

板井地区の小さな夏祭り



企業訪問

一般社団法人 熊谷市観光協会

専務理事兼事務局長 建川 崇嗣さん



〒360-0041 熊谷市宮町二丁目95番地間庭ビル2階 電話 048-594-6677 FAX 048-598-4510

熊谷市観光協会は2017年2月22日から一般社団法人として再始動した。旧協会は1954(昭和29)年に設立され、市役所内に事務局を置き、63年間に熊谷市の観光分野を担う活動を続けてきた。「さくら祭」や「花火大会」などの催事運営や観光情報誌の制作をはじめとした熊谷の魅力の発信などを中心に行ってきたが、ラグビーワールドカップの熊谷開催決定を契機に法人化し、より柔軟に、より専門性を生かした組織に変革しようとして、「オール熊谷」を合言葉に新たな船出となった。

熊谷市観光協会専務理事の建川崇嗣さんは、「ラグビーワールドカップの開催は熊谷にとり大きなチャンス。地元熊谷の方々が増え、おもしろい方々の満足度を高めるためのアプローチを考えている」と語る。「熊谷は観光資源と物語性のあるまち。魅力となるスポットやイベントに溢れている。広く熊谷らしさを発信できれば」と意気込む。

その熊谷らしさを語る上で新たな展開を見せたのが、観光ガイド「design travel WORKSHOP KUMAGAYA」の制作である。ロングライフデザインをテーマに、2017年10月から公募により集まった市民ライターがワークショップに参加し、観光地、レストラン、ショップ、カフェ、ホテル、人の6つのチームに分かれて「熊谷らしさ」を追求し話し合い、取材、原稿を

イベント出店予定

- 7月 28日(土) 雀幸園地粉やきそば講習会 雀幸園 28日(土) 第13回おおさと夏まつり 大里総合グラウンド
8月 4日(土) パナソニックファンサービスデー ラグビー場にきわい広場 16時~19時 10日(金) くまがや平和寄席 熊谷市立文化センター文化会館
9月 15日(土) サッカー大宮アルディージャVS FC町田ゼルビア 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 23日(日) 第25回熊谷ラグビー祭り 熊谷スポーツ文化公園 10時~15時
10月 3日(水) 明神市 高城神社境内 20日(土) 21日(日)第11回ニャオさねまつり 熊谷スポーツ文化公園熊谷ドーム 28日(日) 第12回こうなん祭り 江南総合文化会館ピア駐車場
11月 4日(日) 第5回熊谷市内県立高校スイーツ文化祭 八木橋百貨店1F 10日(土) 11日(日)第14回熊谷市産業祭 熊谷スポーツ文化公園

●会員募集 賛助会員年会費 10,000円 一般会員年会費 一口1,000円 お申込み:TEL 048-521-7801 FAX 048-521-7900

次号のお届けは2018年11月の予定です。 編集室 TEL 048-521-7801 FAX 048-521-7900